

吉野復興大臣福島県訪問ぶら下がり会見録
(平成29年12月14日(木) 1650～1702 於)東京電力福島第一原子力発電所)

1. 発言要旨

こんにちは。

本日は福島県の富岡町、そしてここ、東京電力福島第一原子力発電所を訪問いたしました。

富岡町では、特定廃棄物埋立処分施設(旧エコテック)を訪問し、廃棄物の受入れ、管理作業や埋立ての状況を視察いたしました。この施設は福島の復興・再生にとっては不可欠であり、着実に作業を進めていただきたい、このように思っております。

更にJR常磐線の富岡駅、7年ぶりに再開したわけですがけれども、それにあわせて、本年10月に開業した富岡ホテルに伺いました。周囲に娯楽施設や飲食店が少ないため、バーラウンジ等を設けるなど集客を工夫した館内の施設を訪問いたしました。スタッフの方々から、開業までの御苦労や、これからの課題を伺ったところです。

そして、東京電力福島第一原子力発電所の構内を視察いたしました。最新の廃炉や汚染水対策の取組を確認したところでございます。

特に私の関心事は、現場の方々の労働環境についてでございます。線量低減対策により、ほとんどのエリアで一般の作業服での作業が可能になったこと、大型休憩所にて食事や休憩が可能になったことなど、私自身4年ちょっと前に訪問したときに比べ、着実に改善されていた、このことも確認いたしました。

現場の方々には、引き続き安全最優先で廃炉・汚染水対策を進めていただくようお願いしたところでございます。

復興庁としても、東京電力福島第一原子力発電所の廃炉・汚染水対策の進捗状況を今後ともしっかりと確認していきたいと考えております。

以上です。

2. 質疑応答

(問) 今回、吉野大臣は、復興大臣としては初めて福島第一原子力発電所を訪問されたと思うんですがけれども、そこで、改めて復興庁として、国として、具体的にどういったものができるかということをお感じになられましたか。

(答) まさに福島第一原子力発電所の廃炉・汚染水対策は、福島県の復興・再生を図る意味では、これは最優先の課題であります。

ですから、一日も早い廃炉・汚染水対策を講じていただきたいん

ですけれども、何せ30年、40年という長い年月がかかると予想されますので、そういう意味では、過日示されたロードマップ、これに基づいてきちんと廃炉を進めていくことが福島の復興に一番役に立つ、このように考えております。復興庁、復興大臣としては、一番の関心事はいかに廃炉を早くなし遂げていくかということです。

ただ、今日も現場を見て、急ぐ余り、特に作業環境で被爆をするような、そういう急ぎ方は、これはいけないなと思います。時間がかかっても安全で被爆量を最小限にしていく努力が必要なんだと、このように考えています。

(問) 現時点でどうでしょうか、具体的な施策とか、そういうところまではまだ、今後という形ですか。

(答) 廃炉が復興を進める上では一番、福島の復興を進める上では一番というふうに私は考えております。これは直接的には経産省の仕事でございますけれども、復興庁としてはバックアップをしていきたい、このように思っています。

(問) 今日、各所いろいろ進展が見られたところもあったと思うんですが、やはりここはまだ時間がかかる問題だなというような印象を持った場所、あとは所感などがあれば伺えればと思います。

(答) 一番は、やはりデブリの取出し、汚染水対策、ここはまだまだ、ある意味の試行錯誤でございますので、これから本当に正念場を迎えた取組をしていかねばならないなというふうに感じています。

改善されたところは、やはり労働環境ですね。私が一番前々から考えていたのは、労働環境をいかに安全なものに、そして労働環境をよくすることが事故の低減にもつながりますので、そんなところをずっと発災以来考えておりました。それが劇的に改善されたということ。

私も被災したんですけれども、一番は温かい汁物。これを、この喉を通ったときに、生きているという感じをしました。原子炉の廃炉の仕事に携わっている方々は本当に冷たいお弁当、パン等でありまして、温かい汁物を昼に食べられるという、これは本当に仕事に対する意欲も増しますし、一番はやはり安全な仕事、これにも通ずるのかなと思いますので、そういう意味では劇的によくなったというふうに思っています。昔を知っているものとしてはね。

(問) 今日この地域に入られて、廃炉の工程もそうですけれども、周辺のまちづくりですね、帰還困難区域も含めて、大臣、今日見られたところ、また今後の在り方とか、その辺りはいかがでしょうか。

(答) 帰還困難区域については、6次提言を踏まえて福島特措法改正

を再改正させていただきました。長い年月はかかっても必ず解除する。解除するということは、人々が戻ってきていいということでございますので、特定復興拠点エリアを定めて、とりあえず5年間の間に解除していくという方針で、今事業を進めているところです。

特に常磐線があと2年ちょっとで開通いたします。ということは、双葉町、大熊町の大野駅等、帰還困難区域の真ただ中にある駅も、あと2年ちょっとで一部解除していかないと電車が停車することができません。そういう意味では、帰還困難区域に住んでいる方々にあと2年ちょっとで双葉町の駅がオープンするんだ、一番電車に乗っていこうというような言葉を、私は、選挙期間中にも投げかけてきたんです。10年というとなかなか遠い先ですけども、2年ちょっとというと、目を輝かせている姿も拝見しましたので、そういう意味では、「帰還困難区域といえども必ず解除する」というこの決意はかなり大きなインパクトを帰還困難区域の方々に与えることができたのかなと、こんなふうに思っています。

(問) 今回、廃炉に向けての道のりは長いものになると思いますし、帰還困難区域も5年というところはあると思うんですけども、まだまだ先があると思いますので、時折、(仮称)福島復興庁といたしますか、後継組織の話を大臣おっしゃいますけれども、その辺りについて、今回視察を通して、何かこういうふうに組織があった方がいいとか、その辺り思ったところはありますか。

(答) ポスト復興庁は、仮称でありますけれども福島復興庁、これは私自身の呼び名で、いわゆるポスト復興庁をどうしていくかということでございますけれども、これから各市町村、特に12市町村の復興計画がどうあるべきか、どういう復興計画を立てて、あと3年で復興庁はなくなりますので、その後の復興計画はどうしていくのかとか、その後の将来の見通しとか等のヒアリングをこれから開始していきたい、このように考えているところです。

そして、こういう事業がきちんとあるから、ポスト復興庁も必要だという形の資料収集ですね、そんなところもこれから始めていきたいと思っています。

(問) 大臣、前回1Fを視察されたのは4年前というふうにおっしゃっていましたが、4年前に比べて、恐らくタンクの量は格段に増えていたと思います。

そのタンクを見て、やはりこのトリチウム水というか、いわゆるALPSを処理した後のトリチウムとかを海洋に放出するのかどうかという問題は、まだ地元漁協との折合いがついていませんけれども、これについて何か今日視察しながら考えられたことはあ

りますか。

(答) 日立のALPSとか、東芝製のALPSとか、扉を開けてもらって見てまいりましたけれども、なかなか汚染水対策、特にトリチウム水については、今、経済産業省の方で、いわゆる放射線の学者の方々とか、あと風評被害が起きますので社会学の学者の方々とか、総合的な判断を議論しているところでございます。

必ずやこの議論はまとまって一つの意見として出てくると思いますので、とりあえずそのところを注視して、どういう学者の方々の意見が出てくるか、ここをとりあえず注目していきたいと思っています。

(以 上)